

伝統工芸品

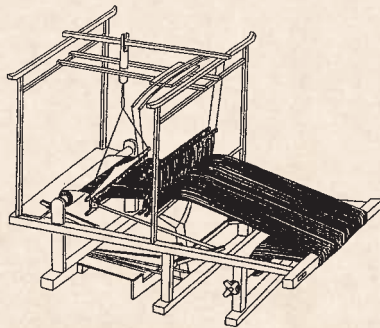
江南区の宝物



新潟市江南区

目次

江南区の伝統工芸品	1
伝統工芸品の魅力アップに向けた 今までの主な取り組み	2・3
商品紹介 <small>かめだじま</small> 亀田縞（立川織物）.....	4
商品紹介 <small>かめだじま</small> 亀田縞（中宮機業）.....	5
商品紹介 越後総ろうそく	6
商品紹介 <small>まぎえ</small> 蒔絵	7
亀田縞今昔物語	8
亀田縞お問い合わせ先	9



江南区の伝統工芸品

江南区の伝統工芸品には、亀田縞、越後絵ろうそく、蒔絵の3つがあります。

亀田 縞 (かめだじま)

亀田縞の起源は江戸時代と言われています。当初は農村地域で農家の自給用として織られていた藍染の綿織物が、その後広く伝えられました。大正期にかけて全盛期を迎えましたが、戦時指定生産がはじまり、その後歴史の幕を閉じることになりました。しかし、平成17年に地元2人の織物職人が復活させ、生産を再開しました。

お問い合わせ先 9ページをご覧ください

越後 絵 ろうそく

手書きで描く花ろうそくは、冬の長い新潟で花のない時期にお供えする生花の代わりとして生まれたと伝えられていますが、専門店は現在江南区では1店のみとなっています。四季折々の季節の花が、長細い局面に豊かに表現された手書き花ろうそくは、まちの駅「亀田の郷(かめだのさと)」でも紹介されています。

お問い合わせ先 小池ろうそく店
〒950-0135 新潟市江南区所島2丁目2番76号
電話:025-381-3044 ファックス:025-381-7064
ホームページ:<http://www.hanarousoku.jp>

蒔 絵 (まきえ)

新潟市の伝統工芸の一つである新潟・白根仏壇の特徴は、蒔絵(まきえ)を多く使っていることです。蒔絵とは、漆を使って木地に様々な絵模様を描いた後、金粉などで着色するもので、その作業は、漆を塗っては金粉などを蒔く工程を繰り返す、緻密で根気のいる職人業です。現在、蒔絵師は市内には大淵在住の職人を含め数人となっています。

お問い合わせ先 有限会社 岩崎仏壇店
〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1丁目1番18号
電話:025-381-3257 ファックス:025-381-7335

伝統工芸品の魅力アップに向けた 今までの主な取り組み

取り組み

①

亀田縞の新品、商品アイデアや活用方法募集
(平成21年度)



【赤ちゃんのおくるみ】

優秀作品5点



【サービストレー】



【卒業アルバムの装丁】



【クラス表示板】



【法被(はっぴ)】

取り組み

②

亀田縞を使った製作・手織体験

親子製作体験
(平成21・22年度)



裂き織り体験
(平成22・23年度)



手織り体験

(平成23年度)



ショッピングセンターでの製作体験

(平成23年度)



取り組み

3

各種イベントへの出店

(平成21年度～)



トキめき新潟国体への出店

(平成21年度)



取り組み

4

西掘ローサ「まちなか情報広場」での展示

(平成21・22年度)



取り組み

5

海外でのPR活動 (亀田繊維工業協同組合での取組-JAPANブランド育成支援事業)

(平成22年度 於: 米国ヒューストン)



商品紹介



【箸入れ】



【ブックカバー】



【ポーチ・小巾着・横長バック】



【エコバック・バッグ】



【フリルバッグ】



【ロングブラウス】



【カフェエプロン】



【切替えチュニック】



【男性用シャツ】



【スリッパ】

商
品
紹
介

亀
田
結



【ノーカラージャケット】



【名刺入れ】



【扇子】



【着物】

商品紹介

越後絵ろうそく



古町芸妓の灯り



豪華な手書きの花ろうそく



各種絵ろうそく



四季の花々を12本に表現



1本1本手描きで絵付け

商品紹介

蒔
絵



仏壇に使われる美しい蒔絵



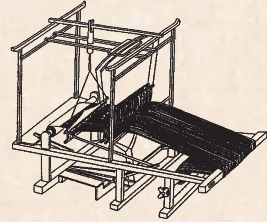
荘厳さ、優美さが際立つ仏壇



蒔絵は緻密で根気のいる職人業

亀田縞今昔物語

藍色を基調にした美しい縞模様と手ざわりの良さが特色の綿織物『亀田縞』は、全盛期（大正時代）には、亀田地区で 600 以上の機屋（はたや）において生産されていた。その起源は、享保年間（1716～1735）とも寛政年間（1789～1800）ともいわれる。また、元禄 9（1696）年に木綿縞（のちの亀田縞）が生産開始との記述もあるが、いずれにしても長い歴史を持つものといえよう。



当時、亀田地区を中心とする農村地域では綿花の栽培が行なわれており、綿織物は農家で自分たちの作業着を作るのに使われた。冬の農閑期に農家の副業として織られた製品は、亀田の商人の手によって集荷販売が行われた。明治 10 年以降、専業として織物製造を営む機屋が増加し、明治 40 年代には足踏機の採用、染色技術の改良、亀田織物同業組合の設立によって、産業基盤が確立され、『亀田縞』は大正期にかけて全盛期を迎え、業者の数も 600 を超えた。生産の中心は紺縞、白縞であったが、染色（染料）の改良で鮮やかな縞も表現できるようになった。製品は地元亀田の間屋によって東北、北海道へも販売された。

しかし長い歴史を持つ『亀田縞』もやがて終息を迎える。それまで農村衣料として堅牢（丈夫）第一だったものが、細糸を使った一般大衆向けの着尺地（反物）にとって代わられた。追い討ちをかけるように昭和 13 年から始まった戦時指定生産により綿糸の入手が難しくなり、その後歴史の幕を閉じることになった。

しかし、消滅から半世紀を経て、2 人の職人が『亀田縞』復活を掲げ立ち上がった。すでに亀田地区の機屋の数は 600 余りから 2 社となっており、2 人はそれぞれの代表である。そして亀田郷土資料館に保存されていた生地の見本帳などから素材と柄の開発にかかり、平成 17（2005）年に復活させたのである。



また、かつての『亀田縞』の縞模様の復活にとどまらず、平成 22 年度には、亀田繊維工業協同組合の事業が経済産業省の「JAPAN ブランド育成支援事業」にも採択され、国内のみならず世界に発信を始めるなど、現在も発展を続けている。

亀田縞お問い合わせ先

◇立川織物【製造元】

〒950-0131 新潟市江南区袋津3丁目1番52号
電話：025-381-3067 ファックス：025-381-4074
ホームページ：<http://kakuto.to.cx/>

◇中営機業有限会社【製造元】

〒950-0134 新潟市江南区曙町1丁目8番18号
電話：025-381-5163 ファックス：025-382-4655
ホームページ：<http://kamedajima.com/>

◇亀田繊維工業協同組合【上の2社の所属する協同組合】

〒950-0134 新潟市江南区曙町3丁目6番1号
電話：025-381-4105 ファックス：025-382-7136
ホームページ：<http://kamedajima.jp/>

◇まちの駅 亀田の郷（かめだのさと）【亀田縞布・製品取扱店】

〒950-0165 新潟市江南区西町2丁目3番24号
電話：025-383-5595 ファックス：025-383-5590
ホームページ：<http://www.kameda310.com/>

◇がっところむ・かめだ【亀田縞布・製品取扱店】

〒950-0164 新潟市江南区亀田本町2丁目7番7号
電話：025-381-6119 ファックス：025-381-6119
ホームページ：<http://www.gattocom.net/>

あしがき

『伝統工芸品 江南区の宝物』の発行にあたって

江南区の伝統工芸品には、亀田縞、越後絵ろうそく、蒔絵の3つがあります。

これらの伝統工芸品は、長い歴史をもつ江南区の宝物です。この宝物をこれからも大切に守り、さらに発展させていこうと、江南区では区独自の特色ある事業の1つとして、「伝統工芸品の魅力アップ事業」を平成21年度から実施してきました。

このパンフレットは、伝統工芸品の魅力を市民の皆様を知っていただくとともに、市外の皆様にもPRすることにより、販路を拡大し、伝統工芸品の育成や地域の活性化にもつなげようと作成したものです。

この『伝統工芸品 江南区の宝物』で、江南区の魅力を更に知っていただけたら幸いです。

平成24年3月改訂

新潟市江南区役所 産業振興課

新潟市江南区泉町3-4-5

Tel.025-382-4809(直通) Fax.025-381-7090

Eメール sangyo.k@city.niigata.lg.jp